



うわど



気づき 考え 高め合い チャレンジする上戸っ子

令和3年2月1日

川越市立上戸小学校 川越市上戸390-1 Tel 232-7200

『2月 如月 衣更着 木の芽月』

校長 黒須 淳一



校庭の桜が、静かに、そして一斉に芽吹きました。2月は、「木の芽月」と表現されたり、「衣更着」（まだ、寒さが残っているので、衣を更に着る）とも表現されたりするそうです。「春遠からじ」というところでしょうか。季節が進むのと同じように、緊急事態宣言下ではありますが感染予防を確実にしながら、みんなが元気に学校生活を送ることができるよう指導してまいります。

『GIGA スクール』

コロナ禍において、今年から始まった新学習指導要領のキーワードは「主体的、対話的で深い学び」です。これまで学校では「対話的」と言えば、1対1やグループで顔を突き合わせ、向かい合って話をするのでした。これからは「対面しない、向き合わない」「声を出さない」という、新しい「対話的」を模索しなければならないのかもしれませんが、これまでの授業様式からは、うかがい知ることのできない新しい教育が、すぐそこにあると言えます。

運動会などをはじめとする行事も、そして授業も、またあらゆる場面において、「あたりまえ」にとらわれず、これまで築き上げられてきた教育の歴史も大切にしながら、目の前の子供たちにしっかりと目を向けて、新しい教育を進めなければならないと考えています。

さて、文部科学省からの「GIGA（ギガ）スクール」構想を受け、川越市においても市立全小・中学校に、一人一台のタブレットPCが配布・貸し出されるようになったことは、過日お知らせした通りです。GIGAは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、日本語にすると「全ての人にグローバルで革新的な入り口を」という意味です。（日本語に訳しても分かりにくい表現ですが…）2019年12月に文部科学大臣メッセージで示された「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～」という、これからの教育の大きな施策のひとつです。

2018年のPISA調査によれば、日本の児童や生徒が学校でデジタル機器を利用している時間はOECD加盟国中最下位であり、家庭など学校外でのデジタル機器の利用も、ネット上でのチャットやゲームでの利用が多く、コンピュータを使って宿題等の学習をする回数も最下位となっていました。また「読解力」についての平均得点や順位も低下し、その要因の一つとして、日本の児童・生徒は「情報活用能力」等を問う問題の正答率が低かったことが挙げられました。この調査によって、日本の学校は諸外国に比べてICTの活用が遅れていることが明らかになり、GIGAスクール構想につながっているようです。

GIGAスクール構想は、一人一人にPCが配布されたからといってすぐに実現されるものではありません。GIGAスクール構想の実現には、①端末（PC）やネットワークの整備②デジタル教科書や教材の活用促進、ICTを活用した学習活動など③教員研修等の指導体制面の3つの柱が挙げられており、このどれもが、今後始まるものであり、簡単ではないことが多くあります。

友達同士の直接の対話や教員とのやりとりの中で身に付くコミュニケーションの力、紙の本にじっくりと向き合うことで育つ思考力や想像力、草むらでバッタやカエルを見つける喜びと本物からしか学べない命の尊さなど、パソコンの画面で身に付く力とそうでないものを見極めながら、子供たちには、社会の激しい変化を受け止め、新しい社会の担い手として、自立的に生きていくための資質・能力を育成していきたいと考えています。